

1 年	単 元 名	「のりものずかん」をつくろう
(教科)国語		

1. 単元の目標

事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉え、文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。

2. 学校図書館活用のポイント※目標との関連も踏まえて

学校図書館を利用し、乗り物のことを調べて「のりものずかん」をつくる活動を通して自分の紹介したい乗り物について、図書資料から重要な語や文を考えて選び出すことができる力を身につけること。

3. 授業での活用場面

学習活動	学校図書館の関わり
1. 本時のめあてを知る。 2. バスについて書かれている図書から「つくり」「できること」を選び出す。 3. グループで伝え合い、人によって選び出すところが異なることに気付く。 4. 選び出した「つくり」「できること」の適切な組み合わせがあることを知る。 ・教師が「間違いの例」を出して、どうして間違いであるかを確認する。 5. 本時をまとめる。	○[事前準備]学校司書と図書の選定をする。今回は、「つくり」と「できること」の関係が多く書かれている図書を選定した。 ○[身につけたい力]図書資料から。文章の中の重要な語や文を考えて、「つくり」「できること」を見つける。 ○[学び合い]児童全員に同じ資料を配布し、選び出した文が適切であるかを、児童同士の話し合いによって解決できるようにする。また、何を大切にするかによって、人それぞれ重要な語や文が異なることにも注目させる。

〔成果〕

- ・事前準備で、授業のねらいに沿った、図書資料を用意することができた。学校司書の力を借りることで、授業で扱いやすい資料が見つかったため、学校司書との連携は必須であると思った。
- ・学校図書館活用の第一段階で児童が同じ資料から、重要な語や文を選び出す活動を取り入れたため、児童同士の学び合いが活発に行われた。最終的な活動は、一人一人違う図書から「のりものずかん」をつくるが、1年生では、読み取りの力に大きな差が見られる。そのため、まずは、同じ資料で重要な語や文を選び出し、児童同士で適切かどうか話し合う場面を設定したことが、良い学びの場となっていた。

〔課題〕

- ・教諭と学校司書との話し合いの時間が取りづらい。教諭の空き時間や、学校司書の勤務形態、学校全体のサポート体制を踏まえて時間を生み出していきたい。
- ・図書資料を使った実践は、児童が進んで学習に取り組む点に良さを感じる反面、様々なページに目がいき、重要な語や文を選び出す難易度が高い。そのため、ページを限定したり、教科書が推薦した資料を用意したりして、あらかじめ資料を吟味することが重要であると思った。